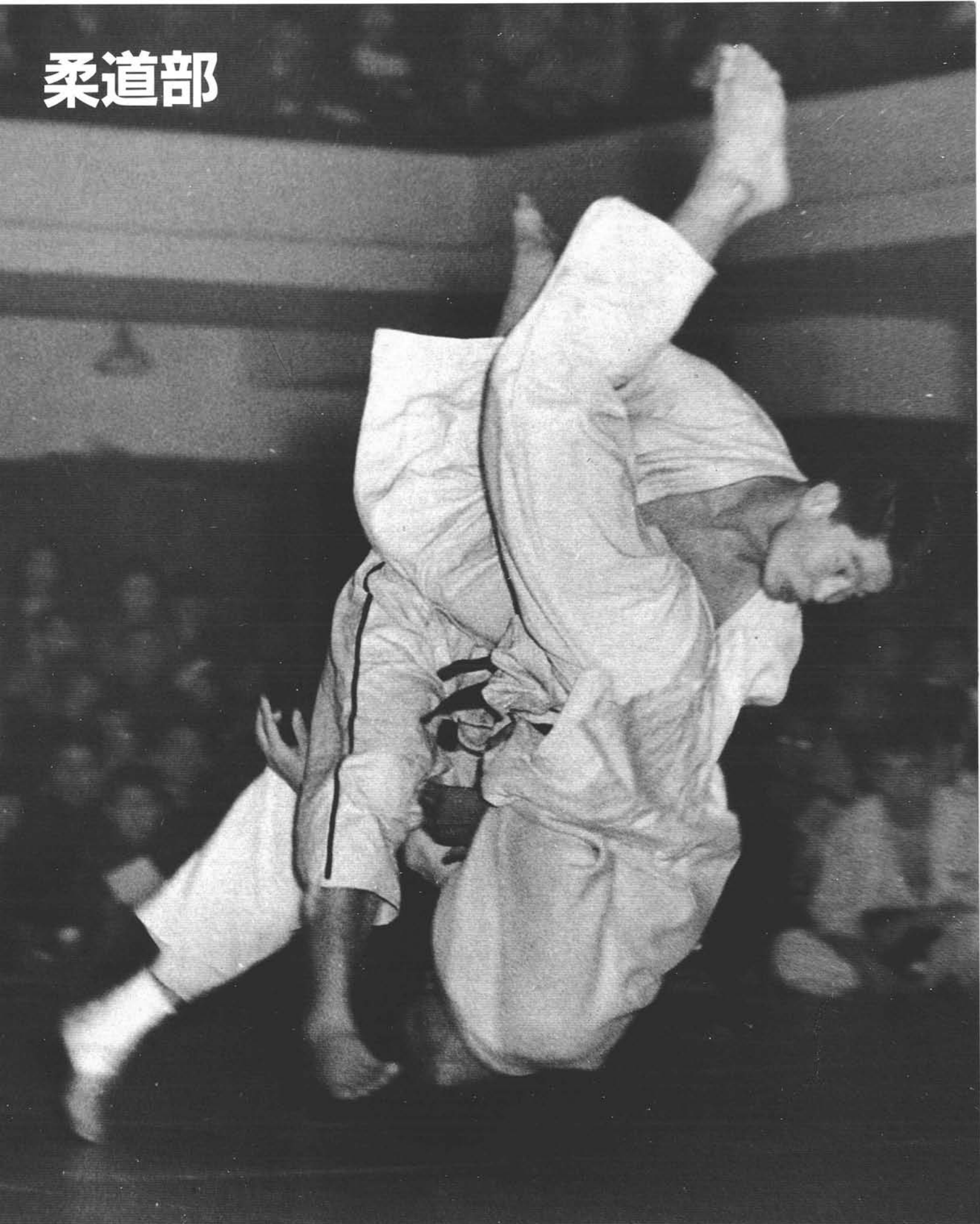


柔道部



1957(昭和32年)・11・24 第9回早慶対抗柔道試合優勝。慶大鈴木、早大吉武の出鼻を返し一本。



1904(明治37年)・10・7 三田綱町道場が竣工。畳数119、間口8間、奥行10間、附属部分を含め約100坪。



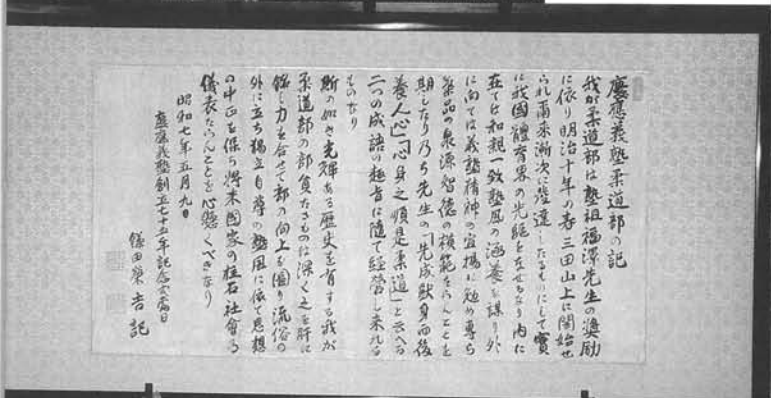
1892(明治25年)・7・2 旧関口流を学んだ幼稚園生らと和田義郎先生の尊影を掲げて。



「心身之順是柔道」福沢諭吉先生書。



1895(明治28年) 福沢先生と部員。



1932(昭和7年)・5・9 「慶應義塾柔道部の記」塾長鎌田米吉記。



1898(明治31年) 卒業生送別記念。福沢先生と部員。



1903(明治36年) 第2回早慶戦優勝記念。



1907(明治40年) 当時の学生柔道界を二分していた対帝大試合両校選手。



1919(大正8年)・8 第4回関西遠征。全京都軍、全大阪軍に大勝。



1928(昭和3年)・11・8 第1回本塾予科・高等部対早稲田第一・第二高等学院対抗試合。優勝。



1929(昭和4年)・5・4～5 御大典祝賀武道大会(天覧試合)。本塾出身の阿部英児、阿部大六、浅見浅一、山川渉の4名が選ばれ出場、活躍した。



1912(明治45年)～1932(昭和7年) 本塾対四校連合柔道試合。対戦21回中、本塾の18勝2敗1分。

1876 幼稚舎々長和田義郎は、福沢先生の旨をうけ、関口流柔術を舎生に教えた。塾柔道の発祥、我が国の学校が学生に柔術を教えた最初である。道場は36畳敷で幼稚舎に附属。

1881 和歌山から関口柔心を招き、幼稚舎柔術の師範とする。

1887 塾生有志、南摩綱夫、小南英策を指南役として講道館柔道を開始。

1889 講道館の四天王と称された、山下義韶四段を師範に迎える。

1892・5・15 体育会創立。会長福沢捨次郎、柔・剣・弓・野球・端艇・水泳・兵式操練の7部。柔道部長、浜野定四郎。道場を今の塾監局横に新築、4間に9間、40畳敷。

1896 幼稚舎の柔術を講道館柔道に改めた。

1899・3・20 第8回柔道大会を盛大に挙行。福沢先生は病後にも拘らず、来賓席に臨まれ終了まで参観。この頃、部員が200名に達し道場を52畳敷に増改築した。また入部

手続きが制定された。

1902・4 創始以来、初の遠征。京都遠征対第三高等学校戦、大将同士の決戦で敗れる。／6・8 第1回対早稲田大学柔道試合が早慶混合懇親試合形式で三田山上にて行われた。

1903 第2回対早稲田大学柔道試合、各々45名で対戦、本塾4名を残し優勝。／6 青木徹二、第2代部長に就任。

1904・3 内田良平四段、師範に就任。／10・7 綱町道場が竣工し、道場開き祝賀大会が終日行われた。畳敷119、間口8間、奥行10間、附属部分を含め約100坪、総工費約5500円。／11・5 講道館秋季大紅白勝負に本塾より33名を派遣、三田柔道の精華を発揮する好成績をおさめた。

1906・5 飯塚国三郎五段、師範に就任。

1907・4・25 慶應義塾創立50周年記念祝賀柔道大会を綱町道場で開催。／11・24 当時の学生柔道界を二分する帝大と帝大道場にて

各20名で対戦、大将戦で敗れた。

1908・5 福沢三八、第三代部長に就任。本年、柔道部師範優遇を目的とした柔道部後援会(三田柔友会の前身)設立。

1910・5 堀切善兵衛、第四代部長に就任。

1912・6・2 第1回本塾対四校連合試合が連合軍59名、本塾軍62名で行われ、4人残して本塾優勝。連合の四校とは日蓮宗大学、水産講習所、農業大学、高等工業学校。

1914・11・15 本塾対高等師範対抗試合、両校選手各29名。大将戦延長にて借敗。

1916・5・8 中野正三三四段、師範に就任。

1919・8 関西遠征。全京都軍、全大阪軍に大勝。

1921・4 柴田一能、新部長に就任。

1926・5 柔道部後援会を発展させ、三田柔友会を新たに発足。

1928・11・8 第1回本塾予科・高等部対早稲田第一・第二高等学院対抗試合、本塾優勝。



1938(昭和13年)・3 ドイツ、イタリア派遣親善武道学生団。羽鳥輝久が選ばれ最年少参加。



1938(昭和13年)・6～9 第1回アメリカ遠征。船上での演武会。



1942(昭和17年)・6・20 第3回全早慶対抗柔道試合。軍人会館にて約2000名の大観衆を集めて行われた。



1949(昭和24年)・5・5 全日本柔道選手権大会。実質的決勝と評された、羽鳥輝久六段対木村政彦七段の対戦。

a. art of throwing

hand technique, waist technique, foot technique,



I taiotoshi:

(literally means: pulling down the body)

and the techniques with one's back or side on the ground.



1948(昭和23年) 講道館発行、外国人向け柔道手引き書「What is Judo?」。講道館が初めて外国人向けに発行したもので、柔道国際化の始まり。水谷英男五段が技指導の被写体。



1954(昭和29年)・10・24 高校関東大会初優勝。

1929・5・4～5 御大典祝賀武道大会(天覧試合)が行われた。選手はいずれも斯界の権威で多くは専門家であるなか、塾出身の阿部英児、阿部大六、浅見浅一、山川渉の4名が選ばれ出場、大活躍した。

1930・11・8 第3回本塾予科・高等部対早稲田第一・第二高等学院対抗試合、早稲田優勝。以降、早慶対抗戦はしばらく中断となる。

1932・6・4 第21回四校連合試合。1912年に第1回が行われて以来、21回にわたる好試合は三田の風物詩であったが、今回を最後に姿を消した。その戦績は本塾の18勝2敗1引き分け。

1933 慶應義塾柔道部史発刊。

1934・11・18 復活第1回本塾予科・高等部対早稲田高等学院・専門部対抗試合は引き分け。

1935 日吉穀谷柔道場竣工。

1936・11・14 復活第3回早慶戦引き分け。

1937 橋本孝部長就任。/11・28 東京学生聯盟リーグ予科高専の部優勝。

1938・3 ドイツ、イタリア派遣親善武道学生団に、羽鳥輝久四段が最年少団員として選ばれた。/4 清水正一五段、師範に就任。/5 東京学生聯盟段別試合五段の部、田岡協優勝。/6～9 第1回アメリカ遠征。飯塚師範引率のもと、学生10名の団員で国技柔道を紹介し、両国親善を果たす。

1940・10・31 第12回神宮柔道大会高等の部塾代表選手が1位(藤川五段)から3位まで独占。/11・10 第1回全早慶戦、早稲田優勝。以降、1943年の第4回まで行われ中断。

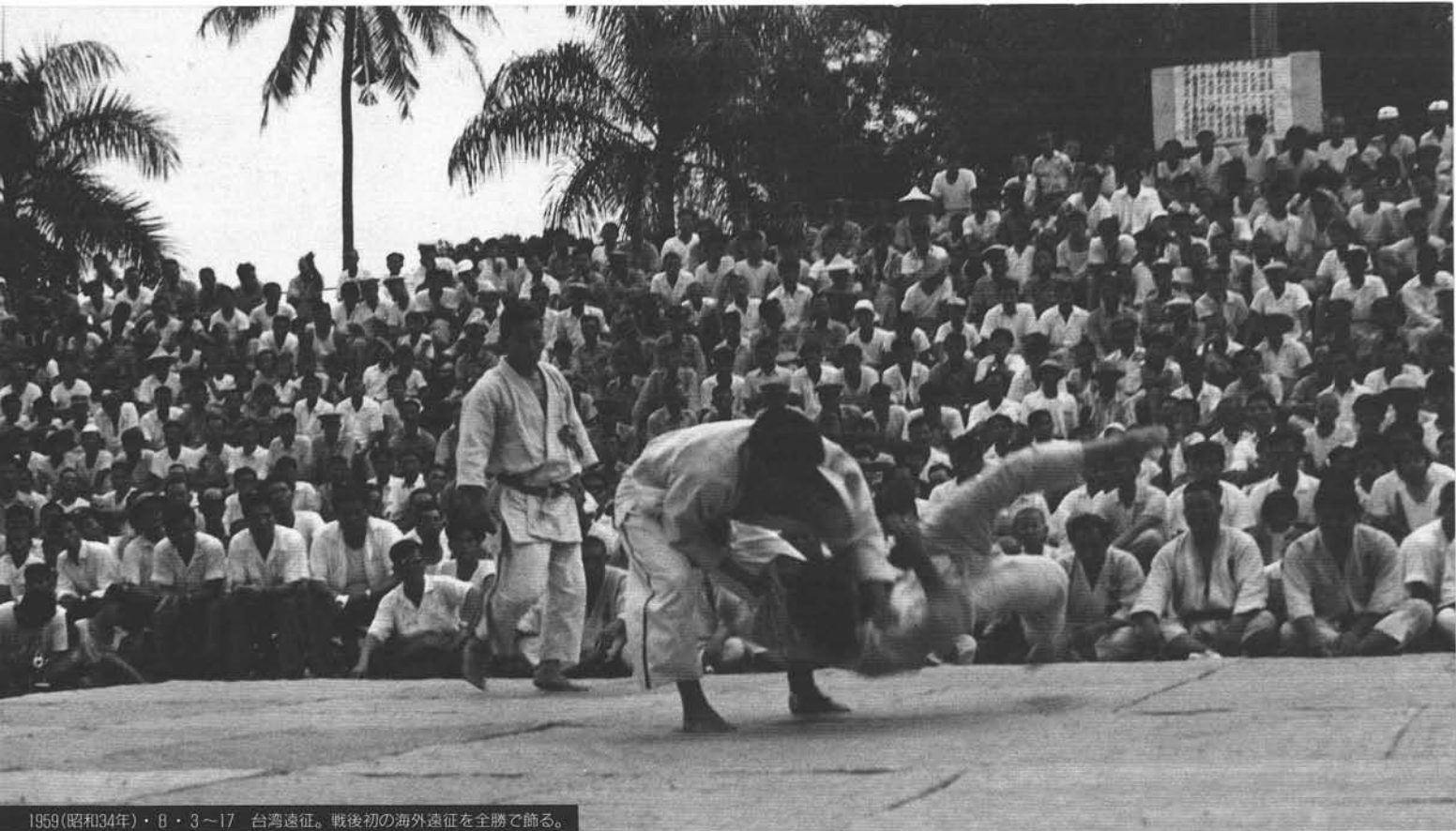
1945・12・12 GHQ指令により、学校柔道禁止。以降、1948年の解除まで部員は三田柔友会の客員として校外柔道クラブを組織、復活陳情に努めつつ、至剛館などで稽古に励む。この間、OB合同早慶戦も3回にわたり行われ、また、部員の他部への出向も盛んに行わ



1958(昭和33年)・11・9 全日本学生柔道選手権大会。阿部大助第3位。

れた。
1947・11・9 東日本対県柔道試合に塾出身の羽鳥六段が東京代表として出場、個人・団体に優勝した。

1949・5・5 全日本柔道選手権大会、羽鳥六段出場。/10・29 東西対抗柔道試合、羽鳥



1959(昭和34年)・8・3～17 台湾遠征。戦後初の海外遠征を全勝で飾る。



1963(昭和38年)・3・14～4・16 全慶應派米柔道使節団。戦後初のアメリカ遠征、全勝で飾る。

六段、水谷英男五段出場。／11・3 第4回団体東京チームで水谷五段出場、優勝。

1950・9 学校柔道復活。／10・13 体育会復帰。

1951 道場修理復興。／1・27 日吉道場開き式典ならび祝賀大会。／2・25 綱町道場開き式典ならび祝賀大会。／5・5 全日本柔道選手権大会、羽鳥六段、水谷五段出場、羽鳥六段第3位。

1952・7・20 東京学生柔道優勝大会、第3位。／11・23 全日本年齢別柔道選手権大会20歳未満の部、熊切昭男三段優勝。

1953・11・22 第5回早慶対抗柔道戦(復活第1戦)早稲田優勝。水谷五段、全日本柔道選手権大会、東西対抗柔道試合出場。

1954・4・15 朝飛速夫六段、師範に就任。／8・1 慶應高校、全国大会第2位。／10・24 慶應高校、関東大会優勝。

1955・8・7 慶應高校、全国大会第3位。

1957・6・9 慶應高校、関東大会第2位。／7 全日本学生柔道優勝大会第3位。

1958・6・8 慶應高校、関東大会優勝。／6・15 東京学生柔道優勝大会第3位。／8・10 慶應高校、全国大会第3位。／11・8 全日本学生柔道選手権大会、阿部大助四段第3位。

1959・4・29 日吉体育館新道場開き、221畳の大道場完成。／6・7 東京学生柔道優勝大会第3位。／8・3～17 第2回(戦後初)海外遠征、日本慶應義塾体育会柔道部訪華団台湾遠征。／8・29～9・2 東北、北海道遠征、全勝。

1960 第9回東北、北海道対抗柔道大会、塾出身石田勝克四段優勝。／4・24 東京、関東学生段別選手権大会、二段の部友田義輔、三段の部植村剛太郎優勝、四段の部南健雄第2位。

1961・4・23 東京、関東学生段別選手権大会、四段の部福山浩洋優勝。／4・29 全日本

柔道選手権大会、植村剛太郎四段出場。

1962・5・27 東京学生柔道優勝大会第3位。清水直臣、師範に就任。

1963・3・14～4・16 第2回アメリカ遠征、全慶應遣米柔道使節団OB学生一行29名対全米オールスター選抜軍他、親善試合を全勝で飾る。

1964・5・2 第12回全米柔道選手権大会、本塾出身植村剛太郎五段、200ポンド以上級優勝、グランドチャンピオン戦優勝。植村健次郎四段200ポンド以下級優勝。

1965・4・24 第13回全米柔道選手権大会、本塾出身友田義輔四段180ポンド以下級優勝。気賀健三、部長就任。伊藤俊一、師範就任。

1967 第2回台湾遠征。

1969 佐藤毅、師範就任。

1972・3・1～17 第3回アメリカ遠征。

1974 石川忠雄、部長就任。第3回台湾遠征。



1964(昭和39年)・5・1-2 第12回全米柔道選手権大会。植村剛太郎200ポンド以上級優勝。グランドチャンピオン戦優勝。植村健次郎200ポンド以下級優勝。



1965(昭和40年)・4・23-24 第13回全米柔道選手権大会。友田義輔180ポンド以下級優勝。



1991(平成3年)・7・7 ありがとう三田綱町道場の集い。塾長挨拶。



ありがとう三田綱町道場の集い
平成3年7月7日



ありがとう三田綱町道場の集い
平成3年7月7日



ありがとう三田綱町道場の集い
平成3年7月7日

1975 橋本昇、青木豊次、師範就任。

1976 安藤勝英、師範就任。

1978・1 慶應義塾柔道部史第二巻を刊行。
／1・21 柔道部創立100年記念式典を交社にて挙行。阪井光男、部長就任。

1979・2-3 第4回アメリカ遠征(アメリカ、カナダ)。

1983・2 東南アジア遠征(シンガポール、タイ、台湾)。加藤雅晴、師範就任。

1986・11 第4回台湾遠征。

1988 田村茂、部長就任。

1990・6 岡野功、師範就任。／11 ハワイ遠征。

1991・7・7 「ありがとう三田綱町道場の集い」を現役、OBが集まり、解体前の綱町道場にて開催。1992年竣工予定の新道場への期待を胸に、明治から平成までの80有余年にわたる青春のふるさと綱町道場に別れを惜しむ。

1991(平成3年)・1・15 明治、大正、昭和、平成、サヨナラ綱町道場辛未寒椿古。



サヨナラ綱町道場辛未寒椿古
明治 大正 昭和 平成



サヨナラ綱町道場辛未寒椿古
明治 大正 昭和 平成